

鶴ヶ谷団地のあした



再整備がほぼ終了した鶴ヶ谷第1市営住宅。若い世代も来て、地域に新たな活気が生まれている（宮城野区）

支えあう安心

「日本一住みたいまち」の夢、後押ししよう。

鶴ヶ谷団地は、1万7000人が暮らす市内屈指の団地です。昭和40年代にモデル団地としてつくられました。高齢化が進むなか、第1市営住宅再整備がほぼ終わり、第2市営住宅の再整備が始まります。高見のり子議員は、提言しました。

子育て世代も流入

高見議員「第1再整備事業では、新しく建設された住宅に、子育て世代の誘導も行われ、新たな世帯の流入も始まっている。

鶴ヶ谷団地は、コミュニティが活発な地域だ。町内会、老人会、学校、体育振興会などに加え、こども

食堂、ラジオ体操グループなど様々な団体が活動している。その中から若い人たちが中心になり、高齢者も子どもも一緒に参加できるマルシェやビアガーデン、花火の打ち上げなどに取り組みたいとの機運が高まり始めた。こうした機運を後押しすることが必要だ。

第2市営住宅再整備では、文化やスポーツが楽しめる集会所を兼ねたホール建設を求める声もある」

都市整備局「集会所の整備を予定しており、規模や場所について入居者の意見を聞いているところ」

高見議員「住民のなかでは『日本一住みたいと思える鶴ヶ谷』を目指して、多くの人を呼び込みたいと夢が広がっている。外部から呼

び込む発想も必要だ」

都市整備局「地域の方々との交流やコミュニティの形成を検討する」

高齢者の見守り

高見議員「第2市営住宅再整備では、高齢者の見守りや支援を行うLSA室（ライフ・サポート・アドバイザー）を設置し、さらにシルバーハウジングやグループホームなども検討してはどうか」

都市整備局「第2住宅は第1住宅と同様、高齢化率が高く、見守り支援のあり方と整備を検討する」

高見議員「第2市営住宅再整備は、戸数を3割減らして1,630戸から

1,100戸にする案が検討されている。東日本大震災で復興公営住宅が建設されたが、入りたくても入れなかった被災者が何百世帯もあった。市営住宅の需要は、高まっている。今回の鶴ヶ谷第2市営住宅の建て替えでは、戸数を減らすべきではない」

都市整備局「需要量が減少する見込みだ」

空き家を減らして

高見議員「本市の市営住宅（1万1,963戸）は、様々な理由で約1,200戸も空き家がある。民間の大家さんだったら急いで手立てをとり、貸し出せるようにがんばる。国から災害公営住宅家賃低廉化事業などのお金がきているのだから、修繕などにあてるべきだ。わたし自身、シングルマザー2人から市営住宅の入居抽選に毎回当たらず困っているとの相談を受けている。空き家をできるだけ減らすようにすべきだ」

谷地堀の改修工事。20年近くたつのに、進捗率はわずか3%だ



豪雨に強く。

豪雨のたびにあふれ出す旧笹(ざる)川。水害を防ぐには、笹川の支流、谷地堀の河川改修(拡幅)と笹川への配水機場建設が決め手です。嵯峨サダ子議員が取り上げました。

決め手は河川改修、排水機場建設



写真中央の水路の奥、改修しているところが、上記写真の場所。水路の拡幅工事は、手前に伸びてくる計画。

嵯峨議員「谷地堀の河川改修は1999年度から始まったが、工事はどこまで進んでいるのか」

建設局「910mのうち28m。進捗率は3.1%」

嵯峨議員「工事の進み方が遅すぎる。事業期間は2021年度までの計画だが、期間中の完了は難しい」

建設局「用地買収に時間を要した」

嵯峨議員「事業費は23億円。年度ごとの予算措置が抜本的に足りない。地球温暖化で、西日本豪雨災害のような被害が仙台でも起きない保証はない」

建設局「事業を着実に進める」

嵯峨議員「一番の解決策は、県が旧笹川に配水機場をつくること

だ」

■配水機場。県は設置を

嵯峨議員「県は配水ポンプの計画を持っているが、具体化していない。市は、千年に一度の大雨を想定しハザードマップを改定した。郡山地区は、深さ3m以上の浸水が想定される『洪水浸水想定区域』に設定された。その一部は『家屋倒壊氾濫想定区域』になっている。これらの区域は、早期の立ち退き避難が必要な区域だ。県に配水機場設置を早急に具体化するよう要請すべきだ」

建設局「地域からも要望が出されており、県に要望していく」

■郡山7、8丁目の冠水

嵯峨議員「4号線の西側、郡山7、8丁目の冠水だが、大雨が降るたびに汚水を含む水があふれだし、床上・床下浸水だ。エアコンの室外機が水につかるなど被害が起きる。大雨の際、郡山ポンプ場の送水能力を超えてしまうため流入ゲートを制御するのが原因だ。郡山ポンプ場は、昭和30年代につくられた。その後、宅地開発で田畑がなくなり、人口が増加した。もはやポンプ場の増設は急務だ」

建設局「上流部に諏訪町ポンプ場を計画しており、浸水リスクは解消されると考えている」

嵯峨議員「諏訪町ポンプ場は、汚水のカットであり、これだけでは解決しない」

■止水板への補助拡大

嵯峨議員「市は、浸水被害を軽減するため止水板の設置を推奨している。設置補助制度があるが、工事費の半額、上限50万円だ。補助率を引き上げてはどうか」

建設局長「使ってみたいが補助率が低いという声が多く出た場合、そうした意見は無視できない」